



JEAN DUNAND

PIECES UNIQUES

エジプト王の名を戴く「Shabaka シャバカ」 ジャン・デュナンから世界初のモデル登場

ジャン・デュナンは、精密工学の粋を凝らした複雑時計にまたも金字塔を打ち立てました。2009年の新作として発表されるスーパー・コンプレケーションです。この時計は、カテドラル・ゴング付きのミニッツ・リピーターと、表示が瞬時に切り替わるインスタネシアス・パーペチュアル・カレンダーを組み合わせたもので、とくにパーペチュアル・カレンダーの日付、曜日、12か月名やムーンフェイズ、閏年の表示は他に類をみないユニークな方式が採用されています。さらに、パワーリザーブ・インジケーターがゼンマイの巻き上げ量を示す方式も独創的です。

このきわめて印象的な表情をした複雑時計の独創的な個性は、従来のようなディスクではなく、4個のシリンダーを用いたカレンダー表示にあります。これらのシリンダーは、ムーブメントに対して90度の角度に立ち上がった4つのトランスミッション・システムによって動き、それぞれの回転スピードも異なります。また、個々のシリンダーには、カレンダーを厳密に切り替えるための安全装置も付いています。さらに、従来の大抵のパーペチュアル・カレンダーとは異なり、二つのシリンダーを組み合わせた日付表示をはじめ、曜日表示や12か月名表示が、深夜12時と同時にスプリング機構が働いて瞬時に先へジャンプして進みます。エネルギーを保存する役割を文字通り果たす「フライホイール機構」は、輪列によって制御され、これがジャンプの際の衝撃を最小限に抑え、消耗や劣化を未然に防ぎます。表示に遅れや不安定な動きもまったくなく、誤差範囲といった猶予さえいっさいありません。

閏年表示にも新しい方式を採用しています。文字盤の7時から8時の位置に、B（閏年を示す **Bissextile** のイニシャル）や数字の1、2、3をくり抜いた部分があり、その下に置かれた白いディスクが移動して、閏年の周期を順に表示する仕組みです。閏年表示と対称的に置かれているのがムーンフェイズは、月を表す白地の背景の上を、地球の影と同様の黒いディスクが移動して、月の満ち欠けを表します。このディスクが一番左にあるときは、月が覆われて新月になり、一番右に達すると、月がすべて現れて満月になります。また、このムーンフェイズの表示精度はきわめて高く、120年毎にわずか1日分のずれしか生じません。このほど優雅な芸術的手法でムーンフェイズを表示する時計は他に例がありません。

パーペチュアル・カレンダーの機構が複雑を極めるのに対し、時計の裏面に配されたパワーリザーブ・インジケーターのほうは、驚くほどシンプルで、そこがまた独創的な点です。香箱は覆われていなく、主ゼンマイが外から見えるので、時計のパワーリザーブは、その巻き上げ状態を目盛りで確認するだけでわかるのです。



JEAN DUNAND

PIECES UNIQUES

「シャバカ」のミニッツ・リピーターには、2つのカテドラル・ゴングが用いられています。カテドラル・ゴングはムーブメントに沿って2周に巻かれ、従来のゴングより音に深みがあり、鐘がよく反響します。ミニッツ・リピーターのスライドボタンは、ケースの左側にあります。ケース右側に上下に置かれているのは、カレンダーのセッティング用ボタンです。クロノグラフを思わせるこれらのボタンは、4時位置のほうで全カレンダーの一括修正が、2時位置のほうで曜日のみの修正が可能です。また、リューズと同軸に組み込まれたプッシュピースを操作して、12か月名や年の先送りができます。ムーンフェイズの修正については、ケース側面の5時位置にあるプッシュピースで行います。

このようなボタンには、それぞれ連動するレバーと筒状の部品がムーブメントに複雑に組み込まれ、カレンダーの各表示が修正されます。

パーペチュアル・カレンダーとミニッツ・リピーターを一つに組み込んだオリジナル設計のムーブメントの直径は13リーニュ (29.5mm)です。カレンダーを表示するシリンダーの直径は7mmあり、ムーブメントの厚みを抑えるために、ミニッツ・リピーター機構の面より2.5mmだけ下に沈み込んでいます。地板はペルラージュ装飾を施した上にアンスラサイト・ブラックの仕上げが、受けにもアンスラサイト・ブラックの仕上げが施され、磨き上げられたスチールやゴールドで彩られたパーツや軸受けのルビーなどと鮮やかなコントラストを成し、ムーブメントの美しさをいっそう引き立てます。その類希な美しさを、製作に携わった職人だけが見て楽しむために隠しておくようなことはありません。「シャバカ」を手に入れた幸運なオーナーが職人の技を隅々まで味わえるように、ケースバックをシースルーにして、ムーブメントとその複雑な機構が見えるようになっています。

独創的なカレンダー表示は、「シャバカ」の力強い幾何学的デザインの文字盤とみごとに融合しながら、存在感を際立たせています。この文字盤は、4層から成り、高度な技術が駆使されています。下地となる部分はゴールドをブラックで彩ったもので、表示部分のフレームにニッケル合金が用いられています。さらに、アワーマーカーとして、ピラミッド状のピンクゴールドが重ねられています。10時、12時、2時のアワーマーカーについては、レッドのセラミックが用いられており、文字盤中央に同じくレッドのセラミックで作られた三角マーカーとともに曜日、日付、12か月名の指標の役割を果たしています。



JEAN DUNAND

PIECES UNIQUES

このモデルのデザインは、紛れもなくアールデコからインスピレーションを得ているだけでなく、エジプトの雰囲気も盛り込まれています。それは、エジプトの第25王朝の王に由来する「Shabaka シャバカ」というエキゾチックな名称にもよく表れています。

「シャバカ」は、ティエリー・ウルヴェイのプロデュース、クリストフ・クラレの指揮のもと、スイス、ル・ロックルに構えるクリストフ・クラレ社の工房で一貫生産されています。

ティエリー・ウルヴェイとクリストフ・クラレの二人は、WPW (World Premiere Watchmaking) 社を共同経営し、「Jean Dunand ジャン・デュナン」のブランド名で時計を発表しています。「シャバカ」は、「トゥールビヨン・オービタル」、12のコンプリケーションを統合した「グランド・コンプリケーション」に続く、3度目の共同プロジェクトです。



JEAN DUNAND

PIECES UNIQUES

主な特徴

キャリバーCLA88QPRM

手巻き、ミニッツ・リピーターおよびインスタントニアス・パーペチュアル・カレンダー

表示

分針および時針

シリンダーによる日付、曜日、12か月名

閏年周期

ムーンフェイズ

主ゼンマイ自身が直接示すパワーリザーブ

二つのゴングによる時・15分・分

カレンダー修正とリピーター操作ボタン

全カレンダーの一括先送り（ケース側面4時位置）

曜日のみの先送り（ケース側面2時位置）

リユーズと同軸に組み込まれたプッシュピースによる12か月名と年の先送り

プッシュピースによるムーンフェイズの修正（ケース側面5時位置）

リピーター操作ボタン（ケース側面左側）

テンプ

ひげゼンマイ、チラねじ付き

スワンネック緩急針

18,000振動/時

パワーリザーブ

45時間

部品数

721個（ルビー54石を含む）

ムーブメントの大きさ

直径29.5mm（13リーニュ）

カレンダー・プレート 36mm×3.2mm（14リーニュ）

文字盤と表示機構を含む全厚 12.19mm

ケース

ゴールド、ニッケル。ゴールドによる多層構造の文字盤

大きさ 44mm×17.65mm

防水性 3気圧（30m）

針

18Kゴールド製、シースルー「スカイスクレーパー」スタイル